

労住まきのハイツ耐震改修計画

建設年度は1975年 4棟380戸

1968年の十勝地震後に計算式を見直しされた1971年改正の建築基準法による設計



構造バランスは

- ① 平面や外観形状が箱形であること。
平面や外観は凹凸を有せず、整形な矩形で、力の流れに無理を生じにくい。
- ② ピロティを有しないこと。
下層階に耐震上の弱点となるピロティがなく、高さ方向への剛性分布が急変しないこと。
- ③ 廊下のスラブには住戸ごとに片持梁を設けて構造を強化していること。
- ④ 下層階鉄骨鉄筋コンクリート造りで、外壁塗装・屋上等、適宜良好に維持管理されている。
以上のことから旧基準の建物にしては比較的安全としていましたが・・・

1981年改正の新耐震設計法以前のため見直しを検討

新耐震基準では、旧基準にはなかった設計用地震力の評価式が抜本的に改正されたことにより中間階付近での耐震設計強度が不足することが懸念され・・・

2012年度にNPO法人文化財修復構造技術支援機構と耐震診断の契約

基本方針は、国の耐震改修規準値を上回る構造補強を立案、現状財務体力内での耐震工事とし、関西大学都市工学部 西沢教授の指導のもと耐震改修計画の学習を開始しております。

